

客船もま。ばなし

〈連載79〉



クルーズ客船は10万総トン時代へ

大阪府立大学海洋システム工学科助教授

池田 良穂

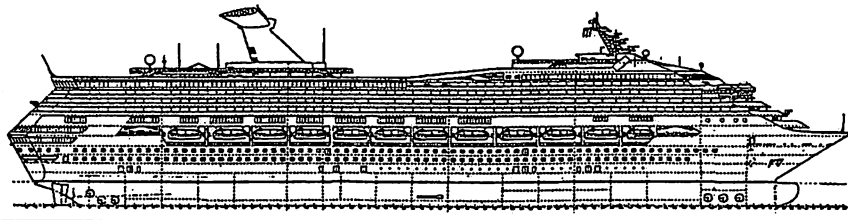
北米の クルーズはますます加熱気味の様相を呈してきて、大型クルーズ客船の新造発注が相次いでいる。現在活躍中の7万総トン型クルーズ客船は10隻あるが、最近の発注船を含めると97年の時点には7万総トン以上のクルーズ客船は26隻にまで達する。日本で最も有名な客船「クイーンエリザベス2」も、最近ついにビック10から脱落してしまい、あと数年もするとビック30ランキング入りも難しくなりそうな勢いである。

こうした中で、カーニバル・クルーズ・ラインとプリンセス・クルーズが、ついに10万総トン型のクルーズ客船の正式発注に踏み切ったことには筆者も驚かされた。この2隻は、いずれもイタリアのフィンカンテリ造船所に相次いで発注された。船価は約400億円。LNGタンカーにも匹敵する高船価である。フィンカンテリ造船所は、この他にも7万総トン型クルーズ客船2隻、5万総トン

型クルーズ客船1隻を受注しており、世界におけるビック・クルーズ客船メーカーとして不動のものにした。

この 10万総トン型クルーズ客船はいずれもカリブ海で使用されることになっており、船の幅はパナマ運河より広いオーバーパナマックス型の船である。最近ブームになっているクルーズは、7日間のクルーズを中心として3日~4日という比較的短いものが世界的な傾向になっており、マイアミなどの港を起点とするカリブ海クルーズではカリブ海水域より外にまででかける長期クルーズに両船のようなメガシップを投入する必要はない、というのがオーバーパナマックスの超大型クルーズ客船が現れた理由であろう。

このように続々と大型のクルーズ客船を建造して十分な乗客は集まるのであろうか。オーバーキ



カーニバルの10万トン型クルーズ客船



ャパシティになるのではないか。また、一日あたりのクルーズ料金が飛行機代も含めて2万円弱からという北米クルーズ市場において、このような高い船価のクルーズ客船を使って船会社は儲かるのであろうか。こんな疑問が湧く。しかし、北米クルーズ運航会社の3大巨頭といわれるカーニバル・クルーズ・ライン、ロイヤル・カリビアン・クルーズ・ライン、プリンセス・クルーズの最近の業績を見てみると、こんな疑問もふっとんでしまう。これらの会社の新造大型クルーズ客船の平均消席率は90%~110%という驚異的な数字を示しており、70%前後と見られている採算分岐点をはるかに上回っている。カーニバルの92年の純利益は約318億円。この数字は総売上約20%が利益となっている勘定である。毎年、7万総トン型クルーズ客船1隻分あまりの利益があがっている

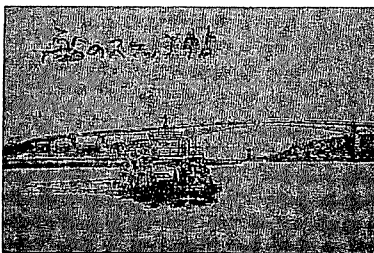
のである。2番手のロイヤル・カリビアン・クルーズ・ラインの93年の純利益が160億円。総売上約10%。3番手のプリンセス・クルーズは約66億円。

最も料金設定が安いカーニバル・クルーズ・ラインの利益率が最も高いことは、現在の北米大衆クルーズの現状を如実に物語っているようにもみえる。

こうしたクルーズブームに乗って、北米レジャー産業の雄ウォルトディズニーも、家族連れをターゲットにしたクルーズ市場に参入することを表明して注目を集めている。その計画によると98年に7万総トンのクルーズ客船2隻を建造することとなっている。このディズニー型のクルーズが、また新しいクルーズマーケットを北米に育成している原動力になりそうに思う。

好評発売中

客船ファン待望の “船のスケッチ帖” 発行 —



製作発行・「月刊・公団船」海交新社

イラストレーター／小林義秀・岩瀬玄海（本誌で連載中）

《発行》 平成4年5月

《体裁》 B6判 約350頁 豪華装丁

《内容》 1頁に1隻掲載

（全景のイラスト及び主要目とコメント）

イラスト航路図

《頒価》 3,500円（税・送料別）

《郵便振替口座》 神戸5-20356 名義／(株)海交新社

※お申込みは 「月刊・公団船」海交新社

〒650 神戸市中央区海岸通4-3-13 ポートビル502

TEL(078)362-6982 FAX(078)362-6878